

令和4年度 学校経営計画表

1 学校の現状

学校番号	2 0		学 校 名		茨城県立水戸工業高等学校				課 程		全日制		学校長名		勝田 滋			
副 校 長	柳橋 正雄				教 頭		木村 齊久						主査兼事務長		佐藤 尚寿			
教職員数	教 諭	6 4	養 護 教 諭	1	常 勤 講 師	4	非常勤 講師	5	実習教諭、実習 講師、実習助手	1 6	事 務 職 員	5	技術職 員等	3	計	1 0 2		
生 徒 数	小学科	1 年		2 年		3 年		4 年		合 計		合計クラス数						
		男	女	男	女	男	女			男	女							
	工業化学	1 7	2 3	1 4	2 6	1 3	2 6			4 4	7 5	3						
	機 械	7 7	3	7 8	1	7 6	2			2 3 2	6	6						
	電 気	7 7	3	7 6	3	7 6	4			2 3 0	1 0	6						
	情報技術	3 5	5	3 5	5	3 8	1			1 0 8	1 1	3						
	土 木	3 6	4	3 6	3	3 5	4			1 0 8	1 1	3						
	建 築	3 3	8	3 3	7	3 1	9			9 7	2 4	3						

2 目指す学校像

◆ 歴史と伝統とともに築き上げてきたものづくり教育の原点と誇りを守りつつ、新しい時代へ対応する充実したキャリア教育・職業教育を実践し、自ら考え、行動できる力を育む教育を目指すとともに、時代の流れを掴み、対応できる能力を備えた科学技術者・技能者を育成する学校を目指す。

3 三つの方針（スクール・ポリシー）

育成を目指す資質・能力に関する方針 （グラデュエーション・ポリシー）	○学校経営計画表の「目指す学校像」等に対応 歴史と伝統とともに築き上げてきたものづくり教育の原点と誇りを守りつつ、新しい時代へ対応する充実したキャリア教育・職業教育を実践し、自ら考え、行動できる力を育む教育を目指すとともに、時代の流れを掴み、対応できる能力を備えた科学技術者・技能者を育成する学校を目指す。
教育課程の編成及び実施に関する方針 （カリキュラム・ポリシー）	○グランドデザインの「教育目標」に対応 ①望ましい職業観・勤労観の育成を図るため、キャリア教育・職業教育及び教科学習を充実させる。 ②生涯学習の意義を明確に伝え、知・徳・体のバランスのとれた力を養う。 ③道徳教育を重視し、基本的生活習慣の確立を図るとともに、規範意識の向上を目指す。
入学者の受入れに関する方針 （アドミッション・ポリシー）	○各校の「スクールガイド」等に対応 ①工業化学科では、化学を基礎から学び、製造・研究開発・分析業務にあたる技術者を目指す意志のある生徒 ②機械科では、基礎知識や専門技術を身に付け、あらゆる分野に柔軟に対応できる視野の広い機械技術者を目指す意志のある生徒 ③電気科では、電気をつくる、届ける、利用するまでの基本となる知識と技術を幅広く学び、将来、社会で活躍できる電気技術者を目指す意志のある生徒 ④情報技術科では、プログラミングやネットワーク、マイコンを用いた制御および電気に関する学習を行い総合的なITエンジニアを目指す意志のある生徒

	⑤ 土木科では、土や水の力学的性質を知り、構造体をつくることを学び、最新の設備・機器を導入して、人々の生活に必要な施設（社会基盤、インフラ）を整備する視野の広い技術者を目指す意志のある生徒 ⑥ 建築科では、構造物を築き上げるために必要な知識や技術を学び、2級建築施工管理士補や2級建築士に合格できる知識や技能の習得を目指す意志のある生徒
--	--

4 現状分析と課題（数量的な分析を含む）

項 目	現 状 分 析	課 題
学習指導	学習意欲が高く資格試験等に積極的に取り組む生徒群と学習意欲があまり高くない生徒群の二極化が見られる。 本校の学習意識調査では、約79%の生徒が「授業を真剣に受けている」と回答している反面、約53%の生徒が「家庭学習をほとんどしない」と回答している。	家庭学習の習慣を定着させるため導入したスタディーサプリの利用率が、4月は80%、6月は82%、9月が88%と、実力テスト前と、運動課題配信時に高く、視聴時間は9月に1506時間と群を抜いて高い。年間を通じて利用率が上がるよう、定期テストへの反映を考えていく必要がある。
進路指導	令和3年度の進路状況は、就職者が174名(55.4%)、進学者は135名(43.0%)であった。公務員には12名が合格し、内定率は年内に100%に達した。 また、4年制大学へは75名が進学し、国公立大学には3名が合格	個々の生徒の適性等を考慮し、企業選択のサポートを行っていくことが必要である。 国公立大学への進学を継続していくための学習指導体制づくりを更に進めていく必要がある。
生活指導	1 毎月の頭髪服装検査の実施により、頭髪服装について改善されている。制服に関しては、25年度入学生から新制服を導入し、男子生徒は改善してきているが、一部の女子生徒の制服の着こなしについて課題がある。 2 自転車運転マナーに関する苦情があり、交通事故が危惧される。 3 盗難は、減少している。 4 駐輪場での自転車の止め方について指導していく必要がある。 5 挨拶運動等の実施により挨拶をする生徒が増えている。	1 服装規定を理解させ、制服をきちんと着るなど、校則を遵守する心を養う。 2 自転車運転マナー等の安全教育を徹底し、立哨指導等により交通事故等の防止を図る。 3 更に継続して、自転車鍵の2つ以上装着を励行させるなど、盗難防止に努める。 4 駐輪場以外の場所に禁止標識を設けるなど指導の徹底を図る。 5 更に元気な挨拶ができるよう環境を整える。
特別活動	1 学校行事に関しては、コロナ禍で軒並み中止になる中、後期クラスマッチを実施することができた。 2 部活動が活発化し成績が向上し、加入率は約7割である。	1 各委員会活動をさらに活性化する必要がある。 2 部室や活動場所について整理・整頓を促す。 3 SNS等を活用した学校PR活動を行う。

5 中間的目標

1 キャリア教育・職業教育の充実を図り、学習目的と計画を「見える化」することにより生徒の自主性を育み、学力・技術・技能の向上を目指す。 2 望ましい職業観・勤労観の育成を図り、創造性豊かなものづくりに対応できる工業人の育成を目指し、資格取得合格率の向上を目指す。 3 より高度な科学技術を学ぶための基礎となる普通科目・専門科目の学習の充実を図り、就職内定率と国公立大学合格者数の向上を目指す。 4 生涯学習としての特別活動の意義を明確に伝えとともに、部活動の活性化を図ることにより、知・徳・体のバランスがとれた教育を目指す。 5 道徳心の向上や心の教育を重視し、基本的生活習慣の確立を図るとともに、規範意識の向上を目指す。
--

6 本年度の重点目標

重 点 項 目	重 点 目 標
I C Tを活用した分かる授業 資格取得 進路実現	I C Tを活用し、主体的で、対話的で、深い学びができる授業を実践し、分かる授業を目指す。 資格取得や検定合格を目指し、専門性を高めるとともに、自ら学ぼうとする態度を育てる。 生徒の進路実現を目指し、キャリア教育の充実を図る。
基本的生活習慣の確立 問題行動等の未然防止 教育環境の整備	規範意識の高揚を図り、基本的生活習慣を確立させ、水工生としての自覚と責任感を身に付けさせる。 道徳心や公共マナーの向上を図るとともに、問題行動や交通事故の未然防止に努める。 整理・整頓・清掃等、校内環境の美化に努め、安全・安心な教育環境を整備する。
部活動の活性化 学校行事を通じた交流 連携と情報発信 働き方改革の意識向上	部活動の活性化と強化を図り、自主性・協調性を育む。 学校行事を通して生徒と保護者や地域との交流を図り、充実感や達成感のあるものにする。 中学校や大学と連携し、本校の教育活動や成果を広く内外に発信する。 働き方改革について意識し、ワークライフバランスを整え、心身ともに健康な状態を維持し教育活動にあたる。